



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 3 月 3 1 日(月)

発行 館長 加藤 智 一

知っておいてほしい

海外で厄介者になっている 日本原産の外来種とは

外来種とは皆さんご存じのとおり、他の国・地域から人為的に持ち込まれた生物のことです。この外来種は、生態系や経済に重大な影響を与えることがあり、環境問題のひとつとして扱われています。毎週日曜日に放送されている、「〇〇DASH」とか言う番組でも度々外来種を捕獲して「美味しくいただく」という企画が放送されておりまして、私たち日本人はまるで被害者であるかのごとき気分での番組を観ているわけです。ところが、考えてみてください。日本からだって、膨大な量の輸出品が、海外に渡っているわけです。当然何らかの理由で海外に根を下ろし、厄介者扱いされている国産外来生物がいるはず。と思って調べてみれば、あるはあるは。その幾つかをご紹介します。結構意外かも。

1 動物編

①カブトムシ：被害が出ている地域は東南アジア、特に台湾。台湾では外来種に指定されています。

②キングヨ：被害が出ている地域はアメリカ。飼育放棄者による放流などが原因で、北米など世界各地で侵略的外来種となっています。繁殖力が旺盛であり、オタマジャクシなどを食い尽くすことがあると言われ、寄生虫やコイヘルペスウイルスの宿主としても問題視されています。

③コイ（錦鯉）：被害が出ている地域は北アメリカ。低温に対する耐性や、雑食性で何でも口にする貪欲さ。さらに 60 cm を超える大きさにまで育ち、大きくなると天敵がほとんどいなくなるといった特徴があります。実際国際自然保護連合ではコイを世界の侵略的外来種ワースト 100 の 1 種に数えています。

④タヌキ：被害が出ている地域はヨーロッパ。毛皮用にロシアに持ち込まれたタヌキの一部が脱走してそのまま住みついたらしい。その勢力は東欧を越え、フランスやイタリア等にも広がっています。

⑤ニホンジカ：被害が出ている地域はアメリカ、ヨーロッパ。海外に持ち込まれて外来種になったニホンジカによる農作物や森林の食害被害が問題になっています。

⑥ヒトスジシマカ：被害が出ている地域は北アメリカ。冬眠できるので温帯や亜寒帯にまで分布を広げています。おそらくは東アジアから北米へ輸出され

た古タイヤの雨水に潜んでいたボウフラがアメリカ東部に定着し、そこから欧州、中南米、中東に分布を広げた。西ナイル、チクングニア熱、黄熱、デング熱などの熱病を媒介します。

2 植物編

①アケビ：被害が出ている地域は北アメリカ。19 世紀に鑑賞用として移入されました。米国、英国ではアケビが侵略的外来種になっています。

②イタドリ：被害が出ている地域はヨーロッパ、北アメリカ。世界の侵略的外来種ワースト 100 選定種のひとつです。19 世紀に観賞用としてイギリスに輸出され、旺盛な繁殖力から在来種の植生を脅かす外来種となり、コンクリートやアスファルトを突き破るなどの被害が出ています。

③クズ：被害が出ている地域は北アメリカ。世界の侵略的外来種ワースト 100 選定種のひとつです。蔓性で草地を這い回り、あちこちで根を下ろします。地上部の蔓を刈り取っても、地下に栄養を蓄えた太い根が残り、すぐに蔓が再生するので、駆除するのはほとんど不可能に近い代物。

④ススキ：被害が出ている地域は南北アメリカ。北米では侵略的外来種として猛威をふるっています。

⑤ワカメ：被害が出ている地域はヨーロッパ、ニュージーランド、オーストラリア。世界の侵略的外来種ワースト 100 選定種のひとつになっています。ワカメの遊走子が日本からの商船のバラストタンクの水に混入した状態でニュージーランドやオーストラリア、ヨーロッパ諸国の沿岸域に運ばれ、そこで水と共に放出されて増殖しました。

⑥フジ：被害が出ている地域は北アメリカ。米国の一部の州で、園芸用に持ち込まれたフジが野生化し、侵略的外来種として扱われています。

